

## 沖縄本島 3 箇所での貝集め

高山壽彦

2019年10月に、那覇市で同窓会が開かれることになり、沖縄に行ってきました。

休暇が取れましたので、沖縄市泡瀬干潟、南城市奥武島（なんじょうしおうじま）、今帰仁村（なきじんそん）大井川河口付近の3箇所で、貝集めを楽しみました。

泡瀬干潟は、貝類をはじめ、高い生物多様性で有名でしたので、埋め立ての進む中でも、貝が拾えるかも、と思っていました。ここでは Soldier crab と呼ばれるミナミコメツキガニ（写真-1）も確認できました。

奥武島は、沖縄の友人の誘いで磯遊びを兼ねて、貝集めをしました。

今帰仁村大井川河口は、東海大学海洋学部非常勤講師・大貫さんからの紹介でした。大井川河口では、マングローブ林が発達していることから、泥干潟に生息する貝類が集められる、との情報でした。

この3箇所の海岸で確認した貝類は、同定を進め、これまでに115種のリストが整理できました。その内訳は、巻貝66種、二枚貝48種、角貝1種、箇所ごとでは、泡瀬干潟76種、奥武島31種、今帰仁村大井川河口14種でした。

泡瀬干潟では、300種以上の貝類の生息が記録されている一方、いくつかの開発計画の中、埋め立ても行われています。今回、数時間の採集で、76種の貝類が確認できました。確認種には、干潟に注ぐ流路の河口付近で、大量の生貝・死殻が見られたイボアヤカワニナ（写真-2）も含まれています。ただし、干潟で集めた死殻には、いたみの大きなものもあり、現状で、当該種の生息の可能性は小さいのかもしれませんが。

奥武島では、ニセクロナマコ（棘皮動物、クロナマコ科）の体表に寄生するクロナマコヤドリニナも採集できました（写真-3、4）。写真の



写真-1: ミナミコメツキガニ（泡瀬）

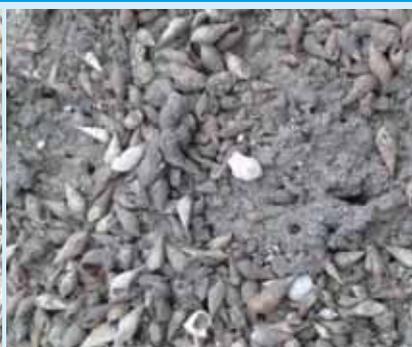


写真-2: イボアヤカワニナの群れ



写真-3: ニセクロナマコからの採集



写真-4: クロナマコヤドリニナ



写真-5: アマオブネ類6種



写真-6: ヒダリマキオカミガイ



写真-7: オキナワハクセンシオマネキ

クロナマコヤドリニナ3個体は、ニセクロナマコ1個体に寄生していたものです。

今帰仁村大井川河口付近では、アマオブネ類6種（写真-5、上段左から、イシダタミアマオブネ、ヒメイシダタミアマオブネ、シマカノコ、ドングリカノコ、イガカノコ、カノコガイ）や、イボイボナメクジと近縁であるイソアワモチの1種、左巻きのオカミミガイ（ヒダリマキオカミミガイ、写真-6）などが確認できました。

また時間があれば、沖縄に採集に訪れたいと思っています。